

フィルター理論による加害行為対策と 包括的な自己防衛フレームワークの提案

成田 こうじ^{†1}

2024年9月6日

Security Innovation Project

現代社会におけるトラブルや加害行為は、カスタマーハラスメント、職場でのハラスメント、暴力行為、ストーカー行為など多岐にわたり、その性質はますます複雑化している。これらの問題は、法的、心理的、物理的な要素が絡み合っており、単一の専門家だけで完全に解決することが難しいという現実がある。例えば、弁護士は法的な問題解決に長けているが、心理的・物理的な安全性の確保までは担えない。このため、並行して警備や安全確保、メンタルケア等の包括的な対応が必要とされる。

本論文では、こうした複雑な問題に対処するために、フィルター理論を用いた段階的な加害行為対策フレームワークを提案する。このフレームワークは、「コミュニケーション」「法律」「安全性」の3つのフィルターを通してトラブルを分析し、異なる専門領域での対応を組み合わせることで、より実効性のある解決策を提供することを目指している。本研究では、カスタマーハラスメントを中心とした実例を通じて、このフレームワークの有効性を検証するが、暴力行為やハラスメント、ストーカー行為といった他の加害行為にも応用可能である。

まず、フィルター理論の基本的な概念と、その背景にある理論的枠組みを説明する。その後、各フィルターを通じて具体的な対応策を詳細に示し、さらに、複数分野の専門家が協力して対処するための統合的なアプローチを提案する。実際のケーススタディを用いて、本フレームワークがどのようにして多面的な問題に対して効果を発揮するかを検証する。

この論文を通じて、複雑な加害行為やトラブルに対する、より包括的で実践的な解決策を提示し、現場における迅速かつ多面的な対応を促進することを目指す。

1. 序論

現代社会において、加害行為やトラブルは多様化し、複雑化している。これらの問題に対して迅速かつ適切に対応するためには、体系的なフレームワークが求められている。本論文では、フィルター理論を用いた加害行為に対する段階的かつ包括的な対応策を検討し、現場での実践的な対応力を高めることを目的としている。

フィルター理論は、コミュニケーション、法律、安全性という3つのフィルターを通じて、問題を整理し、危険信号を見極めるためのフレームワークである。コミュニケーションフィルターでは、言動を通じて相手の意図やリスクを早期に判断し、適切な対応を促すことができる。法律フィルターは、簡単な法的知識を活用して、違法性やリスクを直感的に判断する役割を担っており、安全性フィルターは物理的な危険が差し迫った場合に安全確保を最優先に対応する。

本論文では、このフィルター理論の効果を検証し、カスタマーハラスメントや暴力行為、ストーカー行為などの具体的なケースを通じて、その有効性を示すとともに、理論の限界や今後の改善の方向性についても考察する。

1-1. 背景

現代社会において、加害行為やトラブルは日常的に発生し、問題の複雑さが増している。特に、カスタマーハラスメント、暴力行為、ハラスメント、ストーカー行為などのケースが増加しており、従業員や個人に対する精神的・物理的な影響が深刻化している。このような問題に対して、従来の対応策は個別のケースに焦点を当てており、包括的かつ段階的に対応するためのフレームワークが不足している。

フィルター理論は、こうした複雑な問題を整理し、コミュニケーション、法律、安全性の3つのフィルターを通じて、段階的にリスクを評価し、適切な対応策を導き出すための枠組みを提供する。これにより、現場で迅速かつ適切な対応が可能となり、特に法律フィルターを活用した直感的な判断や、安全性フィルターを通じた物理的なリスクへ

^{†1} Security Innovation Project